

令和7年度 前期学校評価

- 学校関係者評価
- 自己評価
- 児童アンケート



小中一貫校

南アルプス市立 白根東小学校

令和7年度 白根東小学校 前期学校評価

○学校関係者評価委員会より

- 教職員の自己評価、児童アンケートの結果を見ると、先生方の日々の努力が現れていることが分かる。
- 教職員の自己評価の回答に、教職の経験年数によって、違いが見られるのか？
→経験年数で分析していないので、正確なことは言えないが、回答の様子を見ると、経験年数で違いは見られないと感じる。
→今後、経験年数等で分析するとよいのではないか。
- △ 教職員の自己評価で見ると、「(2)マネジメントサイクル(PDCA)で、より良いものに改善を図ろうとしている」「(5)危機管理(事故・加害行為・災害等・個人情報・綱紀保持等)を意識し、教育活動等に当たっている」「(12)小中一貫校として目指す児童生徒像を理解し、そのための取組や教育課程を意識して行っている」が、今後の課題となるのではないか。
→小中一貫教育の取組については、保護者からも、「分かりにくい」等の意見がある。今後も学校からより積極的な説明及び周知をしていきたい。
- 「小中一貫教育」の目的等も漠然として分かりにくい。保護者に分かりやすい取組をしていけるとよい。例えば、中学校の教員が小学校で出前授業を行うといったことは、保護者にも分かりやすい取組であると思う。
- 「小中一貫教育」の具体的な取組が進んでいくとよい。現在、飯野小と東小で取り組んでいるスリンプルプログラムを中学校でも1年生から取り入れていくようにすれば、良いのではないか。
- 地区や市全体で行うあいさつ運動などの期間は、子どもたちもあいさつをしてくれるが、日常生活の中で、子どもたちのあいさつが返ってこなくなっているという声が、地域の中から出されている。
→日常的にあいさつができるよう学校でも子どもたちと一緒に取組を強化していきたい。

<まとめ>

学校関係者評価会議では、学校評価の内容だけではなく、「全国学力・学習状況調査の結果」「通学路点検の結果」をまとめたものも資料として説明を行った。それに関しても、多くの貴重な意見・示唆をいただいた。「全国学調の考察より出された今後の取組について、その取組の成果まで出せるとよい。」という意見や、「通学路の標識や表示の設置や引き直し等については、安協や警察、自治体など、多くの場所への報告や依頼を今後も地域と学校で協力して行っていきたい。」という意見が出された。

今回出された貴重なご意見を、2学期以降の教育活動に活かしていきたい。

令和7年度 白根東小学校 前期教職員自己評価結果及び考察

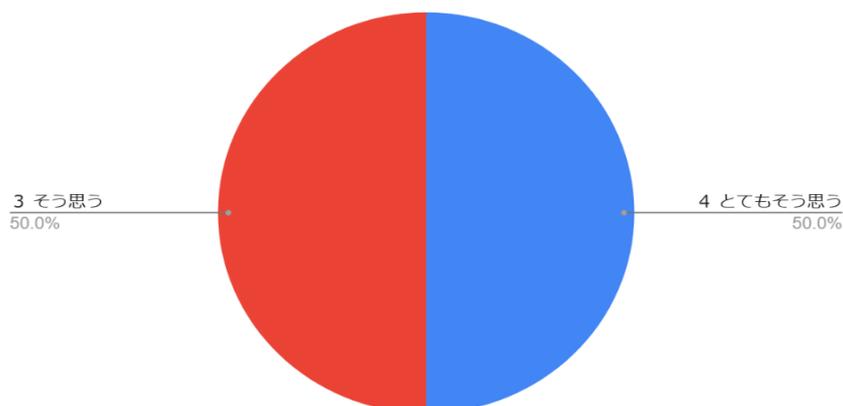
1. 成果が上がってきていること

- ・全体的に肯定的な回答が多く、白根東小学校の教育活動は全般的に良好に行われていると言える。
- ・校訓「やる気・元気・根気・勇気・思いやり」が教職員や児童に浸透している。行事や学習、児童会活動などの教育活動が、「5本の木」に即して進められ、評価まで一貫した取り組みとして行うことができている。
- ・児童が落ち着いた学校生活を送ることができており、学習に向かう姿勢が整っている。また、教職員も、それぞれの専門性を生かしながら児童の指導・支援を行うことができている。校内研究を通して、組織的に授業改善に取り組み、校内のOJTも盛んである。児童自身も、「授業が分かる」と感じている児童の割合も高い。
- ・集団生活を送る上で「きまりや約束」を守ろうという意識が児童に根付いてきている。全教職員が共通理解のもと、生徒指導に当たっている。
- ・いじめ、不登校、問題行動などに対しても早期対応、組織的対応を心がけ、職員の情報共有、支援の共通理解が図られている。また、研修の機会を生かしながら、児童の実態を適切に把握したり、困っている児童へ対応したりする方法を学ぶことができている。

2. 課題となること

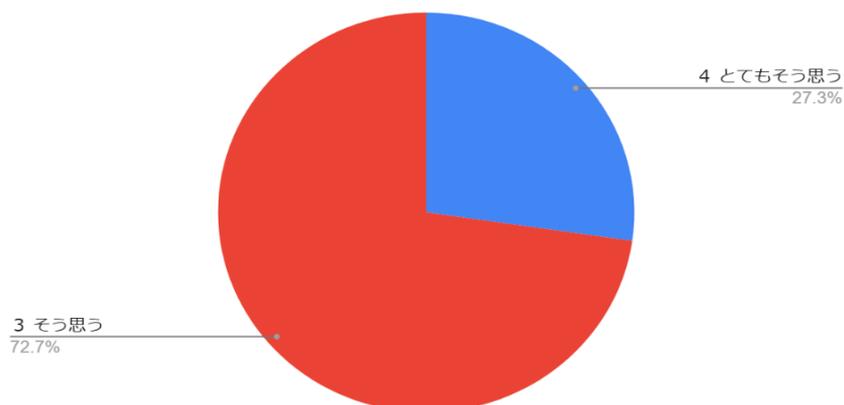
- ・授業改善において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての研究を進めていきたい。その研究の中で、児童アンケートからの課題となっている児童の発表する力の育成についても進められるようにしていきたい。自分の考えを他者に理解してもらえ、他者の考えを理解していくという体験を味わう機会を多く設けることによつて、学びを深めるだけではなく、いろいろな人とコミュニケーションをとる喜びや多くの人に関わり合って生活しているという社会の仕組みについても理解できるようにしていきたいと考える。
- ・児童アンケートの「学校での様子を家の人に話していますか」という項目に、否定的な回答をする児童が他の項目に比べて多かった。児童が伝えきれていない学校での様子について、お便りやHP等を活用して、伝えられるようにしていきたい。
- ・前述とも関わってくるが、小中一貫教育について、保護者や地域の方々に分かりづらいところもあるため、取組については、より積極的に発信していく。また、白根巨摩中学区の今後の取り組み内容については、3校の教職員での共通理解をさらに推進し、児童生徒に合った活動を展開できるようにしていきたい。

(1) 学校教育目標・目指す児童像・校訓を意識して、教育活動を進めている。



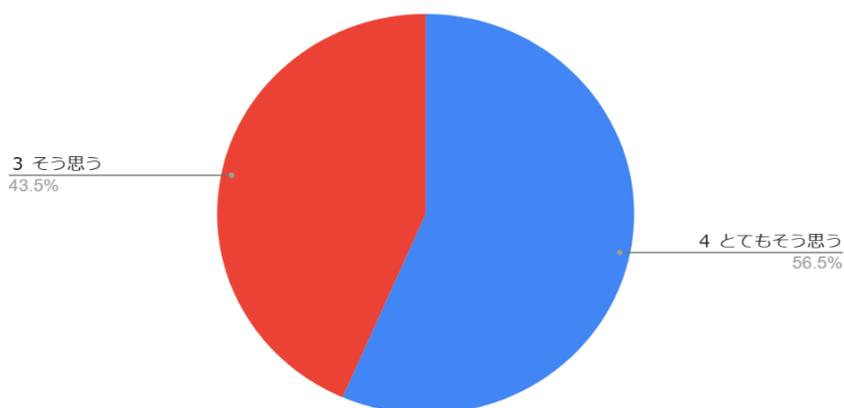
教職員の共通理解のもと、教育活動を進めることができていると捉えることができる。校訓については、児童も意識して学校生活を送ることができているので、引き続き、「5本の木」を意識して教育活動を展開していきたい。さらに、教育活動の成果として、目指す児童像や学校教育目標を常に振り返りながら、随時、教育活動の内容の精選と充実に努めていきたい。

(2) マネジメントサイクル (PDCA) で、より良いものに改善を図ろうとしている。



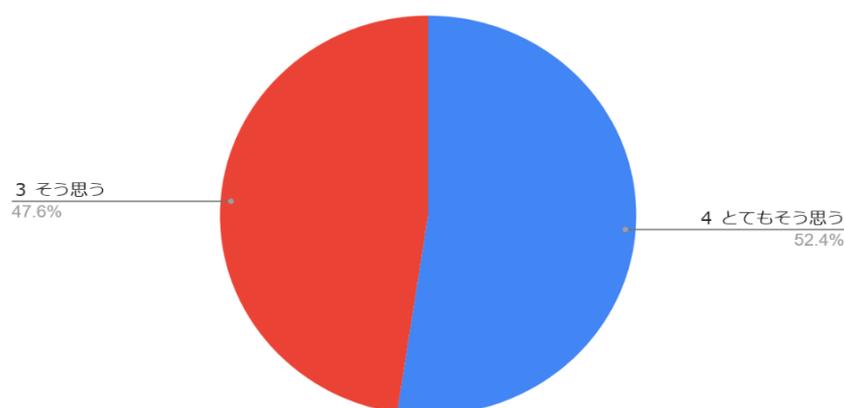
行事等においては、計画段階で十分討議をしながら実施し、終了後には成果と課題を挙げ、次回取組に生かすようにしている。今年度の行事等においても、昨年度の課題を克服できるようブラッシュアップを心がけ、取り組んでいる。今後、さらに、時程の改定や教科担任制の在り方、行事の精選に取り組み、学校運営を行っていく。

(3) 他の教職員と連絡調整・コミュニケーションを図りながら、(組織的・協働的に)教育活動にあたっている。



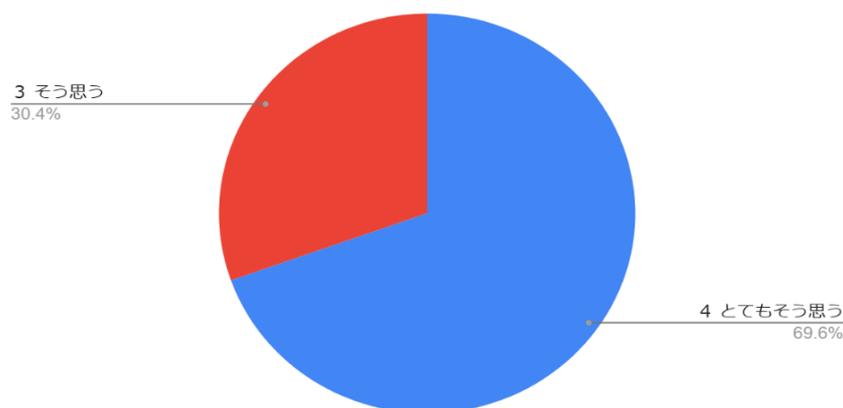
今後も、1つ1つの教育活動を行う際には、連絡調整を密にとりながら進めるようにしていきたい。また、分掌主任や担当に負担が過重にかかることがないように、全教職員で協働的に仕事ができるようコミュニケーションを取りながら教育活動を進めていきたい。

(4) 学校評価・一校一実践一人一実践・人事評価制度・校内研・各種研修を通し、自分を磨き専門性を高めようとしている。



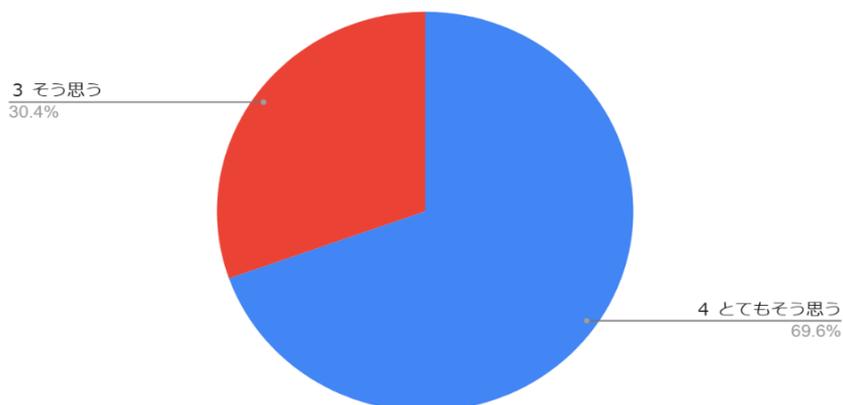
校内研をはじめ、各種研修においては、それぞれの専門性を大切にしながら、職員が積極的に取り組んでいる。校内におけるOJTも意欲的に行われており、今後もそれぞれが自身の専門性を高めるとともに、学校全体としての専門性も高められるようにしていきたい。

(5) 危機管理(事故・加害行為・災害等・個人情報・網紀保持等)を意識し、教育活動等に
あたっている。



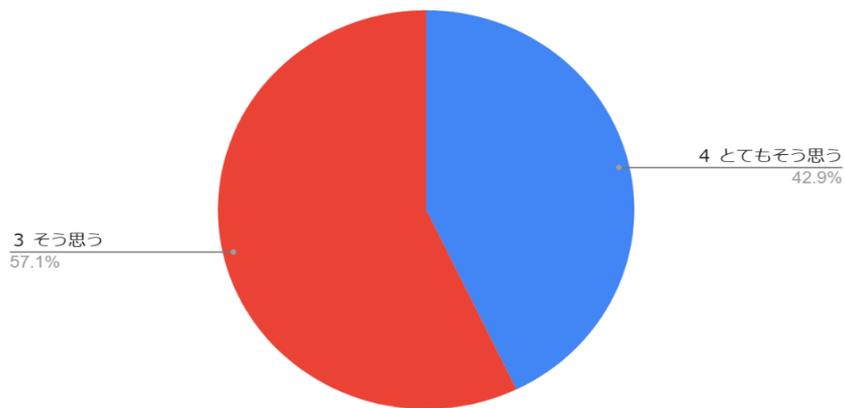
危機管理については、いつ、何が起こるか不確定な中で、予防、準備等が必要になってくる。児童の心身の健康や安全に関することについては、最悪の事態を想定しながらより実践的な避難訓練等の計画や児童の実態把握に努めていく。教職員の服務規律の確保については、折に触れて職員室の話題とし、職員間のコミュニケーションを深めていく。

(6) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。



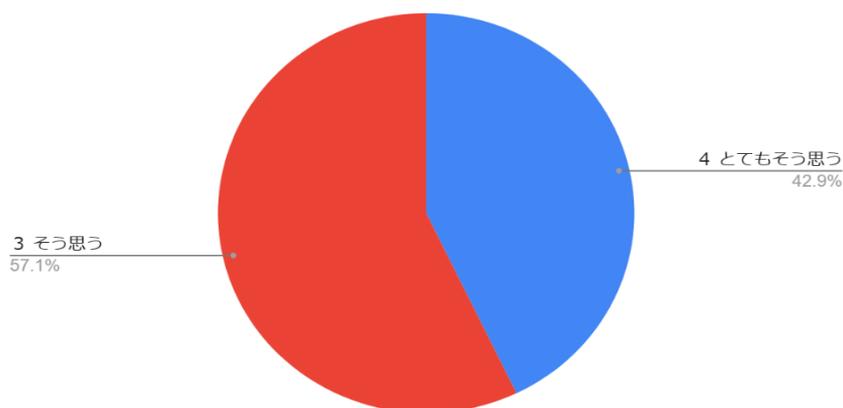
教職員が基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指して授業改善に取り組んでいることが分かる。児童一人一人の基礎的な力を高めていくことで、関わり合って学んでいく力も伸びていくので、今後も、児童の基礎的・基本的な力を伸ばしていけるような授業づくりに取り組んでいきたい。

(7)「関わりあい高めあう」授業(校内研テーマ)を通して、思考力・判断力・表現力及び主体的な学習態度の育成に努めている。



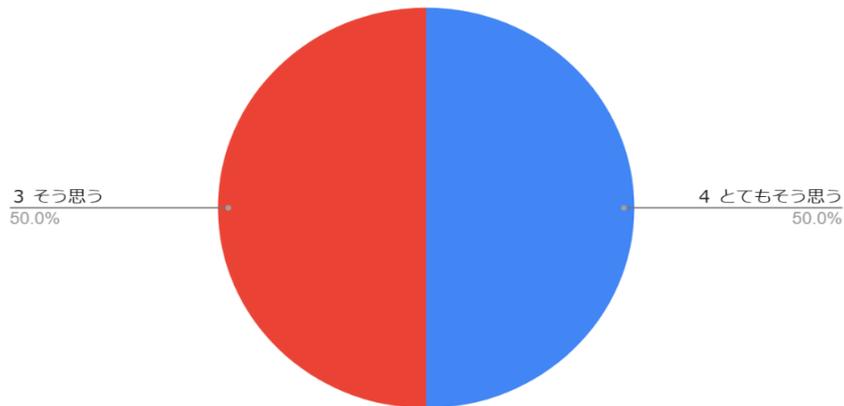
前項目の結果と比較してみると、基礎的・基本的な知識及び技能の習得の上に思考力・判断力・表現力の育成があると考えているのではないかという傾向が見られる。児童同士の学び合いを授業の中でどのように仕組んでいくのか、今後さらに研究を深めていきたい。また、ICTの活用についても、積極的に進めていきたい。

(8) 学校が「きっかけ」をつくり、保護者とも連携し、児童の学習習慣が確立するよう努めている。



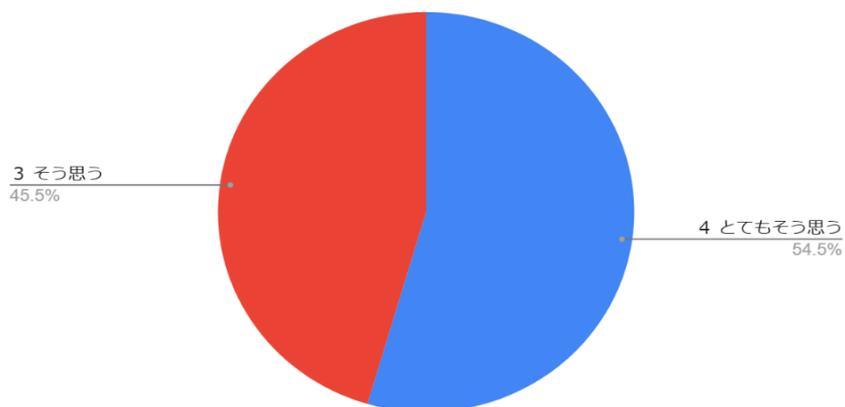
児童が、今後、生涯を通じて学びを深めていくことができるようにするために、学習習慣の確立の取組は必要不可欠である。児童一人一人が「学び方」を理解し、自分の興味関心に応じて、学びを深めていけるようにしていきたい。宿題の取り組み方を含め、各家庭とも連携を取りながら、児童の学習習慣の確立に努めていきたい。

(9) 児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学年・集団づくりに努めている。



各学級で、児童理解を進め、一人一人が学級集団の中で輝いていけるよう、さらに、集団としての力も高めていけるよう、今後も取組を進めていきたい。Q-Uや学力アンケート等を上手に活用しながら、一人一人に居場所のある集団づくりに努めていきたい。

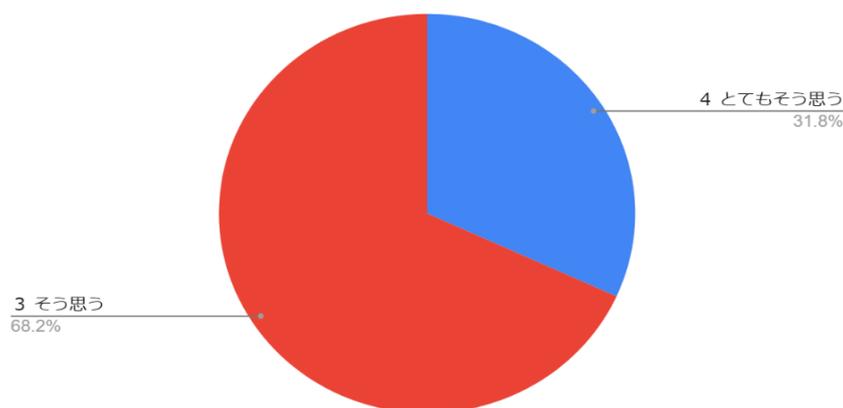
(10) いじめ・不登校・問題行動・トラブル等の未然防止ならびに発生した場合の適切な対応に努めている。



いじめに関しては、昨年度末に見直した「いじめ防止基本方針」に沿って、1学期もいじめアンケートをもとに「いじめ防止対策委員会」を開催し、早期発見、早期対応に心がけている。また、不登校傾向の児童に対する対応についても、各関係機関との連携を図りながら、改善していけるよう取り組んでいる最中である。

今後も、児童理解を基本に、個々のケースに応じた対応ができるよう教職員間の共通理解を深めていきたい。

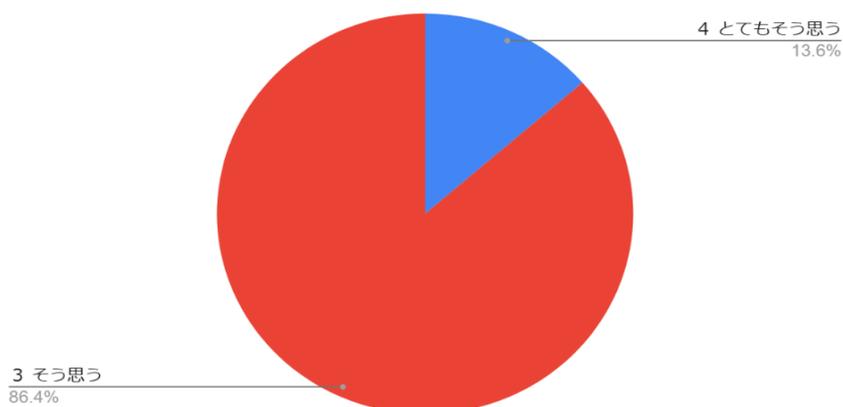
(11) 児童理解・生徒指導・特別支援の観点に立ち、児童の特性に応じた(組織的な)指導に努めている。



児童への指導・支援については、どの教職員も同じ支援・指導ができるよう心がけている。そのために、児童の様子について、職員会議等の際には、情報共有を行っている。

前項目とも関わってくるが、それぞれの児童への理解を深めるとともに、一部の教職員だけが対応していくのではなく、組織的な早期の対応を心がけていく。

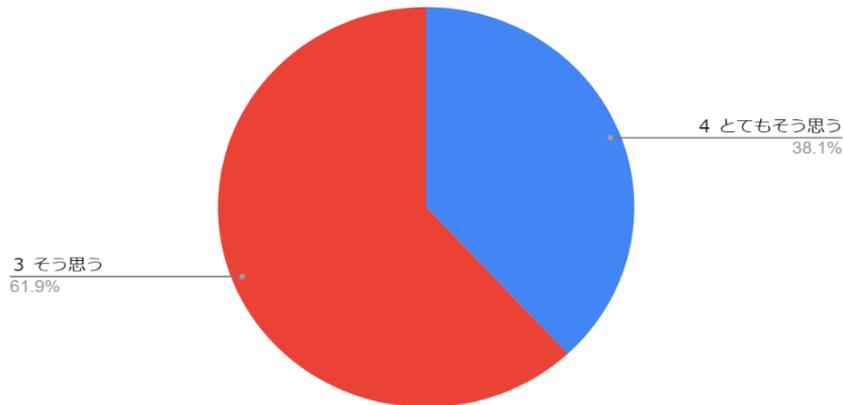
(12) 小中一貫校として目指す児童生徒像を理解し、そのための取組や教育課程を意識して行っている。



年3回の小中一貫教育研究会において、白根飯野小、白根巨摩中の先生方とも協力して取組を行っている。1学期も、小中合同のあいさつ運動を行ったり、中学校の合唱集会を本校の職員が参観したりという活動を行った。今後、児童生徒間、教職員間も交流を進め、9年間を見通した教育活動が展開できるようさらに研究を深めていきたい。

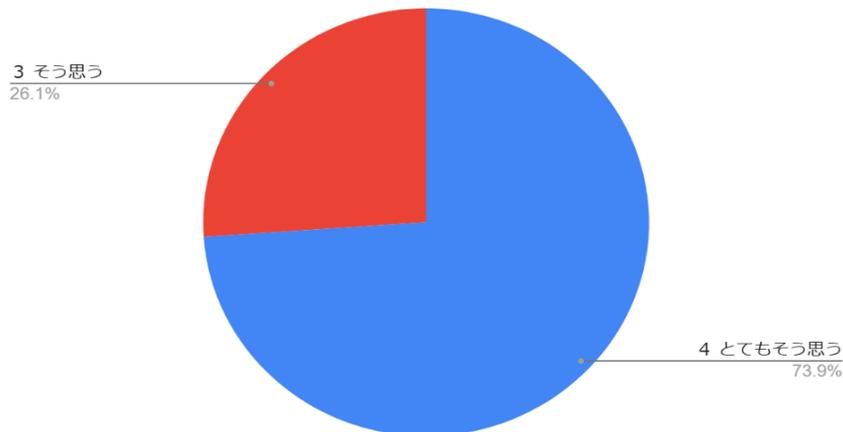
また、小中一貫教育の取組について、保護者や地域にもっと発信していくことが必要であると考えます。

(13) 保護者・地域(及び関係機関)との連携・協力を努めている。



本校は、登下校時の見守り等において、多くのボランティアの方の御協力を得ている。地域の方々や保護者の皆様に児童が温かく見守られていると感謝している。
今年度より、「学校運営協議会」(コミュニティ・スクール)の取組がスタートした。より地域の中の学校として存在できるよう、学校の取組や児童の様子について、地域に発信していきたい。また、保護者との連携も深め、児童が自分らしい人生を送ることができるよう協力していきたい。

(14) 白根東小はいい学校だと思う。



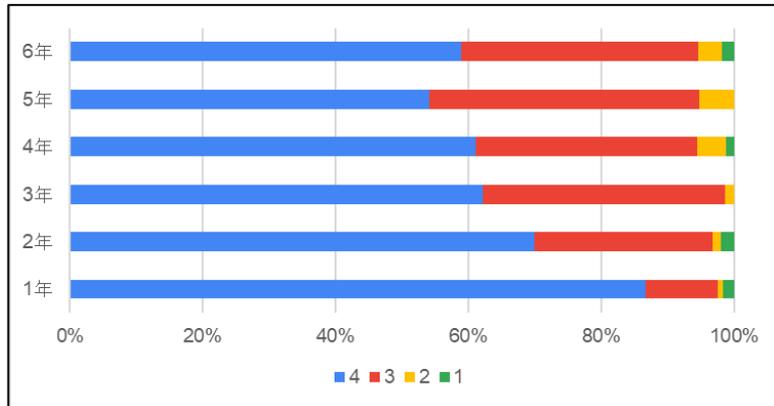
「とてもそう思う」という職員が多かった。前向きに教育活動に取り組んでいる結果である。児童も教職員も、保護者も地域の方々も、「白根東小学校は良い学校だ」と思えるような取り組みをこれからも推進していきたい。本校に関わる全ての人が笑顔で学校について会話が交わせる姿を目指していきたい。

令和7年度 白根東小学校 前期児童アンケートの結果及び考察

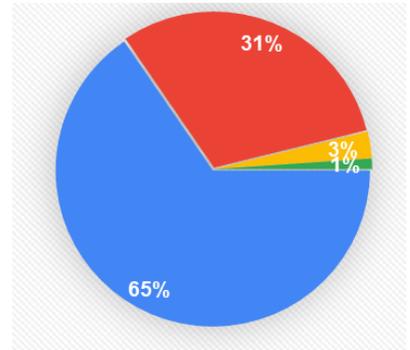
4:とてもそう思う 3:そう思う 2:あまり思わない 1:思わない

(1)「やる気」「元気」「根気」「勇気」「思いやり」を意識して生活することができましたか。

<各学年>



<全校>

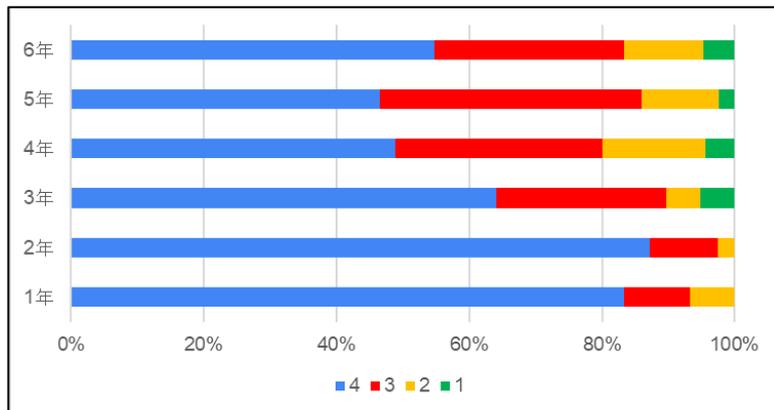


肯定的な回答をした児童が全校で96%という結果であった。児童の中に、「校訓」が浸透し、学習や生活に取り組んでいることが分かる。一方、1の回答を示した児童が数名いるので、各学年で改めて児童の様子を把握していくと共に、2学期以降さらに児童の学校生活への意欲を高めたり、仲間との協力や思いやりのある行動を進められたりするような指導・支援を行っていききたい。

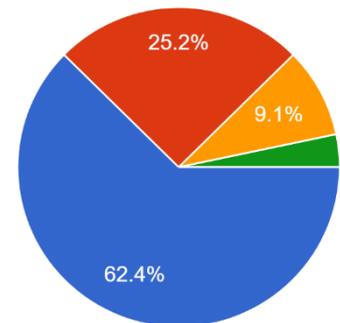
具体的には、運動会や音楽発表会などの行事を通して、仲間と一緒に1つのことをやり遂げる充実感を味わうことができるようにしたり、普段の学習や生活の中で小さなことでも児童の頑張りの過程を認めたりするようにしていきたい。

(2)学校が楽しいですか。

<各学年>



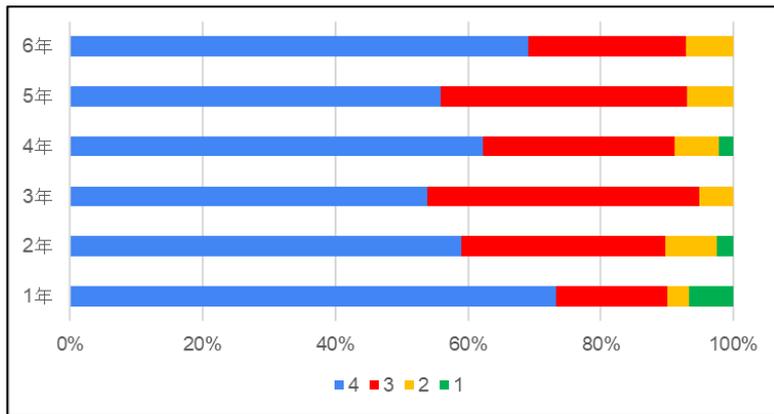
<全校>



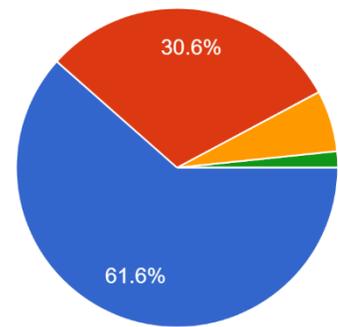
多くの児童が「学校は楽しい。」と回答しているが、1割強の児童が、「楽しくない」と感じていることが分かった。2学期以降、何が要因なのか一人一人の児童の様子を分析し、学校生活への充実感を得られるような支援をしていきたい。本アンケート、Q-Uなどの調査を活用し、児童の実態をつかんでいくとともに、日頃から児童とのコミュニケーションを深められるように心がけたり、スリンプル・プログラムなどの取組を通して、児童同士の関係も深めたりするようにしていきたい。また、児童の自主性を大切にし、児童自らが学校生活に積極的に関わっていきけるような活動を仕組んでいきたい。

(3)分からないとき・困ったときに、話しかけられる友達がありますか。

<各学年>



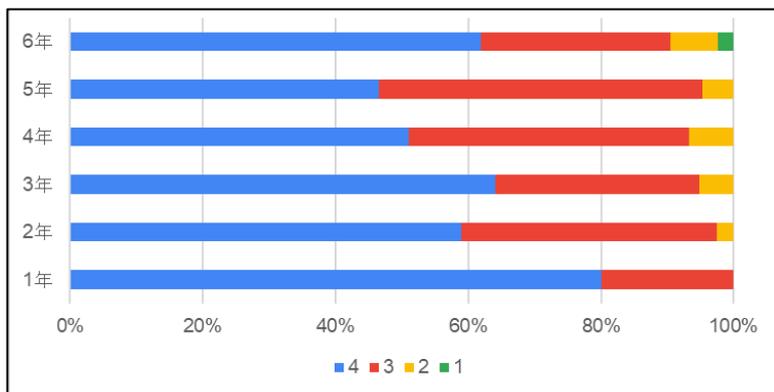
<全校>



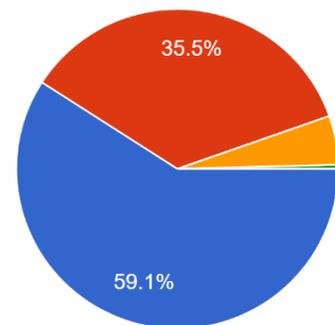
9割以上の児童が、肯定的な回答をしていて児童同士の関係性が良いことが分かる。一方、一定数の児童は否定的な回答をしていて、何らかの支援が必要なことが分かった。1年生で1と回答している児童が多いが、発達段階上、まだまだ児童同士の関係性が希薄であることが要因の1つとして考えられる。今後も、「スリンプル・プログラム」を中心とし、学校生活全般を通して、児童同士の関係を深められるような活動に取り組んでいきたい。

(4)授業は分かりますか。

<各学年>



<全校>

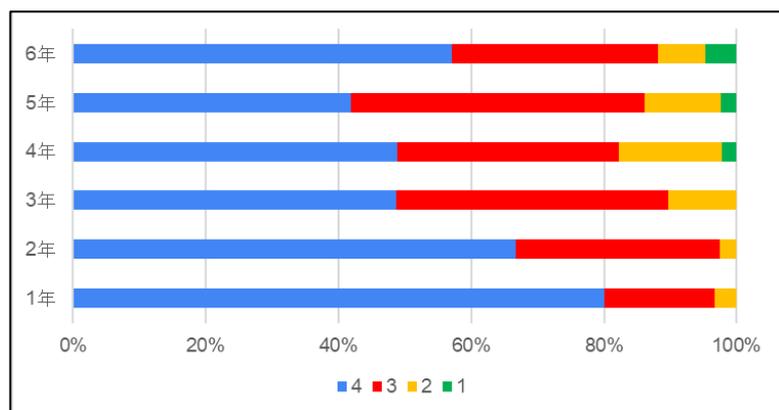


この項目については、肯定的な回答を示す児童が95%近くであり、ほとんどの児童が授業について分ると答えている。これは、職員が常に授業改善の意識をもって教材研究等を進め、わかりやすい授業づくりを目指している成果である。

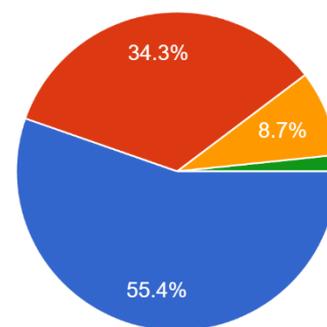
しかし、2、1と回答している児童も見られる。「授業」は学校の教育活動の中で多くの時間を費やすものであり、授業がすべて、といっても過言ではない。今後も児童にとって「わかる」授業、「楽しい」授業を目指し校内研究などを通じて、全職員で授業改善を進めていきたい。

(5)勉強で分からない時には、先生や友達に聞いていますか。

<各学年>



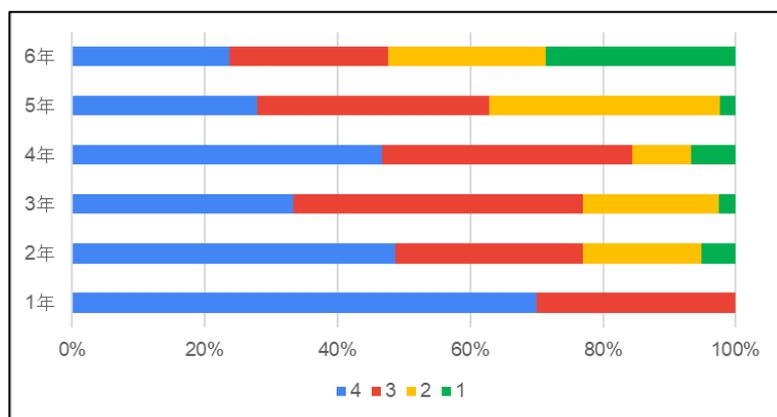
<全校>



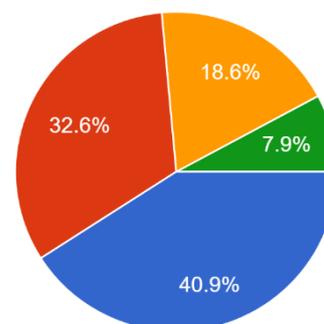
90%近くの児童が肯定的な回答をしていて、低学年程その割合は高くなっている。これは良い傾向であると捉えることができる。今後は、「聞きにくい」「聞けない」と思っている児童にスポットを当て、できる限り、教職員が積極的に声掛けを行うようにしていきたい。前項目とも関わってくるが、今後も「分かる」授業づくりに取り組み、さらには、相談しやすい、教室の中では、どんな発言も言葉も尊重される雰囲気づくりに努めていきたい。

(6)授業中に、手を挙げたり自分の考えを言ったりしていますか。

<各学年>



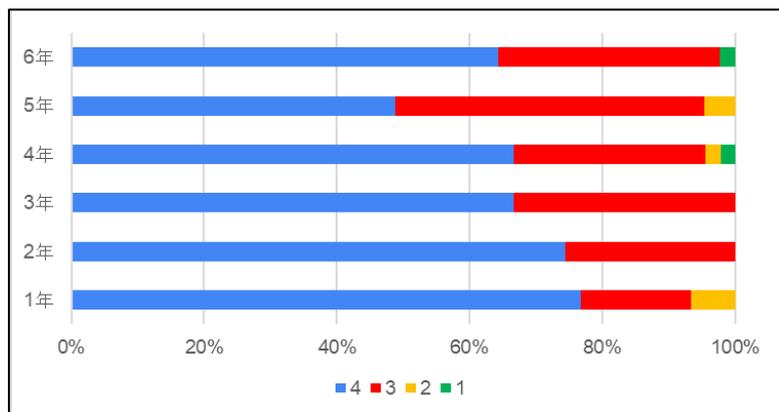
<全校>



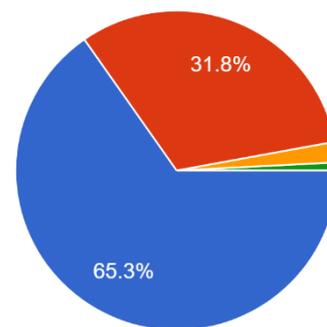
高学年になるにつれて、肯定的な回答が少なくなっている。発達段階を考えるとその傾向も一般的なのかもしれないが、自分の考えを表現することは非常に重要なことであり、その表現力もこれから必要になってくる。ただし、自分の考えを伝える方法はたくさんあるので、声に出して発表することが苦手な児童には、記述を使っての表出やPCを使っての発表も勧めていきたい。自分の考えを表出する様々な方法があることを児童が知り、それを選択していくことができるようにしていきたい。

(7) 学校や社会のきまりや約束事を守っていますか。

<各学年>



<全校>

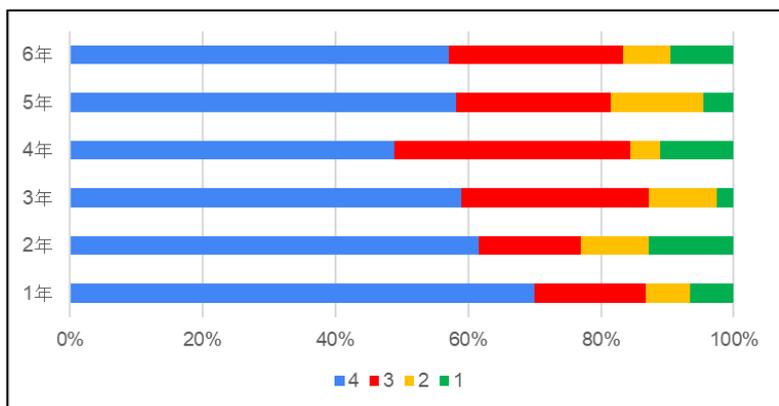


学校や社会のきまりを守ろうとする意識が強く、97%以上の児童が肯定的な回答を示している。これまでの児童会を中心とした呼びかけや生徒指導担当を中心とした指導の積み重ねが成果となって表れている。

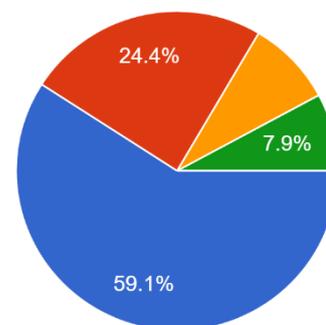
今後も、きまりや約束事が必要な理由を考えることができるようにし、きまりや約束を守って生活することで、多くの人が気持ちよく生活することができることを実感できるようにしていきたい。

(8) 学校での様子を、家の人に話していますか。

<各学年>



<全校>

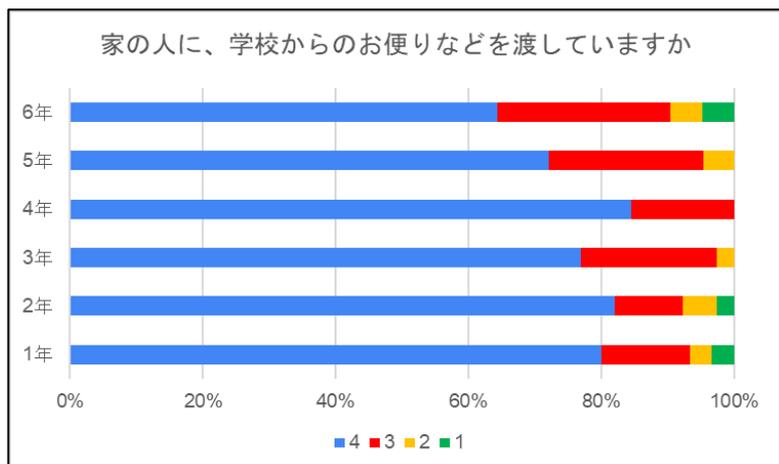


全校では、80%以上の児童が肯定的な回答をしていて、家に帰って学校での出来事を話している児童が多いことが分かる。しかし、学年によって、少し差が見られ、他の項目より、1と回答している児童も多い。

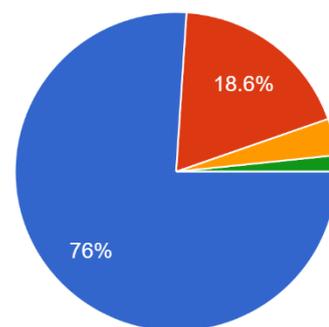
今後も学年通信などを中心に発信しながら家庭の協力を得る中で、児童と学校の話をする機会を増やしていくことを勧めていきたい。

(9) 家の人に、学校からのお便りなどを渡していますか。

<各学年>



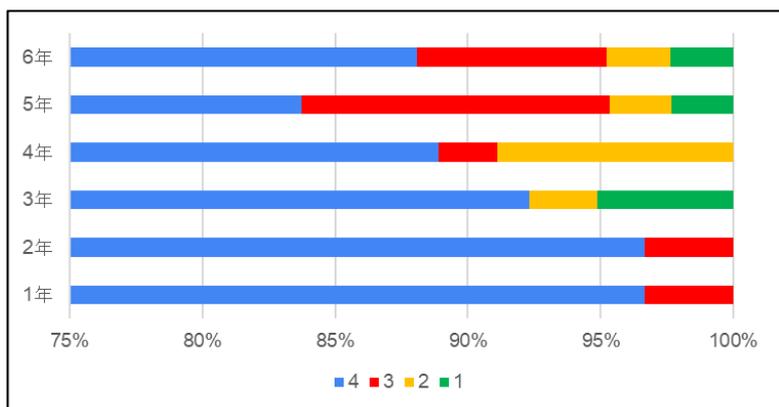
<全校>



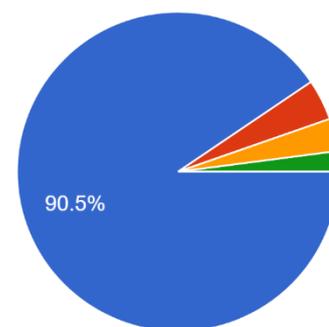
95%近くの児童が肯定的に回答している。2、1の回答がゼロの学年もあり、学校からの文書をしっかりとお家の人に見せている児童の様子が見える。職員が学年・学級だよりなどを通して、保護者との連携を図っていることの結果もあると考える。学校からのお便り等が届かないと不都合が生じる場合もあるので、今後も保護者の協力を得る中で、安心メールでの配信も含め、お便り等が確実に渡るよう声をかけていきたい。

(10) 朝ごはんを食べて登校していますか。

<各学年>



<全校>

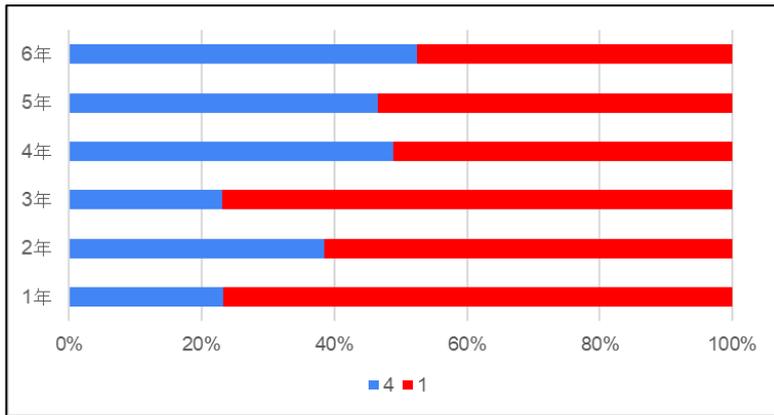


この項目についても、95%近くの児童が肯定的な回答を示している。朝ご飯を食べることは、時間的な余裕も必要になってくるため、各家庭で、児童の健康についてしっかりと考えてくださっている成果である。ただ、中学年の児童の中に、否定的な回答をしている児童が多いのが気になるところである。

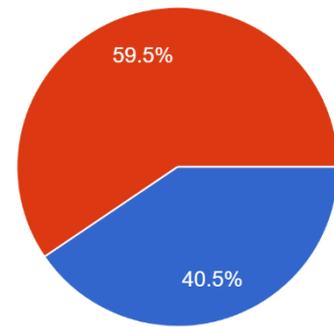
朝ごはんについても家庭の協力が必要不可欠であるので、朝ごはんの大切さについて保健指導を中心に進めると共に、保護者にも協力していただけるようお便り等で呼びかけるなど、引き続き取り組んでいきたい。

(11)自分のケータイまたはスマホを持っていますか。

<各学年>



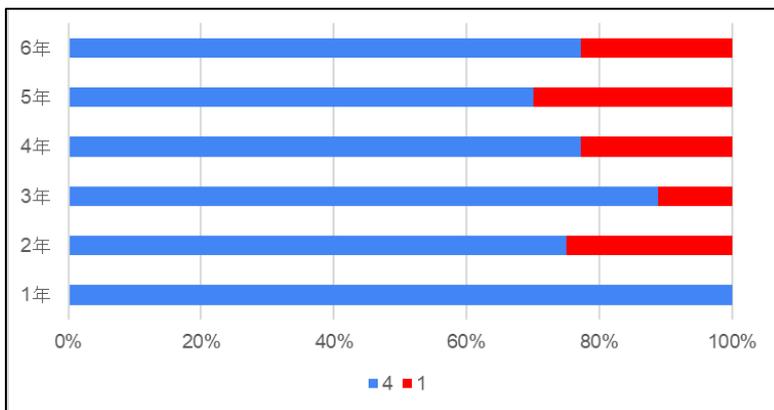
<全校>



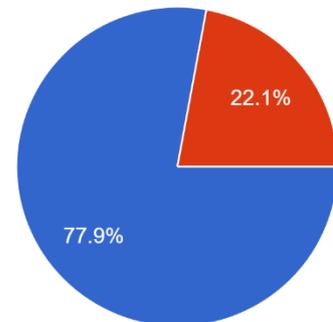
全校で4割の児童が自分の携帯電話・スマホを所持していることが分かる。高学年では、5割の児童が所持している。今後、携帯電話やスマホ、SNSの使い方について、学年に応じた学習の機会を設けていくようにしたい。

(12)ケータイまたはスマホを使う時の家のルールはありますか。

<各学年>



<全校>



ルールがある家庭が多いが、学年によって偏りもみられる。使い方によっては、児童の安全や将来の不安につながっていくこともあり得る。引き続きSNSの活用方法などの学習の機会を積極的に設け、児童に安全な活用法を伝えていくと共に、保護者にも啓発を進めていきたい。

